

自分達で出来ることは自分達で成し遂げる  
～行動を続けることの大事さを考える～

南城市つきしろ自治会 会長  
新城 辰夫

# 自分達で出来ることは自分達で成し遂げる ～行動を続けることの大事さを考える～

南城市 つきしろ自治会  
会長 新城 辰夫

## つきしろの概要

- 1973年(S48年) 2月 . . . つきしろの街、宅地造成着手(株式会社 大京)
- 1975年(S50年) 11月 . . . 宅地造成完了
- 1976年(S51年) 5月 . . . 住宅第1号入居
- 1979年(S54年) 4月 . . . つきしろ行政区誕生、つきしろ自治会発足  
世帯数: 56世帯、人口: 267人
- 1985年(S60年) 9月 . . . つきしろ児童公園落成
- 1989年(H元年) 9月 . . . 世帯数: 155世帯、人口: 600人
- 1996年(H8年) 4月 . . . つきしろ公民館落成。
- 1998年(H10年) 5月 . . . 世帯数: 240世帯、人口: 801人
- 2002年(H14年) 4月 . . . 防犯灯及び汚水処理場を(株)大京より移管
- 2009年(H21年) 12月 . . . 公共下水道へ供用開始  
汚水処理施設・浄化槽の役割は終了
- 2013年(H25年) 4月 . . . 南城市「字つきしろ」誕生!
- 2021年(R3年) 9月 . . . 世帯数: 575世帯、人口: 1,315人

写真①



昭和50年宅地造成完了後、開発される前の『つきしろ』

写真②



写真③



昭和61年に撮影された『つきしろ』の航空写真です。

写真④



平成29年に撮影された『つきしろ』の航空写真

## ①つきしろの成り立ち

つきしろは、他の自治区のように昔から受け継いできた伝統的な共通するやり方や定められた形の文化等の様式はありません。まだ発展途上の自治区であります。つきしろ自治区が誕生して42年目になりますが、開発分譲というバブル前の産業開発の先駆で、(株)大京観光が創始した新集落であります。高台にあり景観・眺望のいい条件に適した立地として、業者は開発に取り組み『天空の街』として売り出し、土地の売買に時間はかからなかった。南城市には同時期に、大里グリーンタウン、佐敷の新開が開発されております。そこは3～4年で建物が建立され、現在は立派な自治会として先駆な自治会活動を行っております。

しかし、つきしろ自治区は40数年たっても、まだ多くの空地が点在しています。その違いは何でしょうか？業者は種々の条件に適した場所と決め開発しましたが、自然環境の有りさまを見通すことはできなかった。

つきしろは高台に位置しているため、梅雨時期になる一帯に濃霧が発生し影響をあたえる周囲の状態は、交通面に支障を及ぼすことや湿気があり建物がぼろぼろになる等、伝聞が飛び交い一気にこの集落が『霧の街ゴーストタウン』と風評に晒され、価値ある空地が人口原野化となり、周囲の集落よりゴミや廃棄物の捨て場となってしまった。状況の変化は混迷をたどり何十年間も自治区民は厳しい煩雑な暮らしを強いられてきました。このように誠に僭越ながらつきしろ自治区の成り立ちは、語りにくい述懐になります。



**空地は、雑草・雑木が繁茂し、生活ゴミ・廃棄物の捨て場となっている。**



## ②【自助努力】自分達で出来ることは自分達で成し遂げる ～健康づくりを軸に～

前章にのべましたが、このような自治区の成り立ちを、自治区民がどのように求心力を求めてきたかを、発表いたしたいと思います。

平成20年より、つきしろ自治区は健康づくりを軸とした地域づくりを呼びかけ、健康生活のあり方や「1年に1回の特定健診を受診して、自分の健康を自分で守って下さい。」と発信をしつつ私達の住んでいる今の悪い状況を皆で払拭しようと、平成22年より行動に移しました。

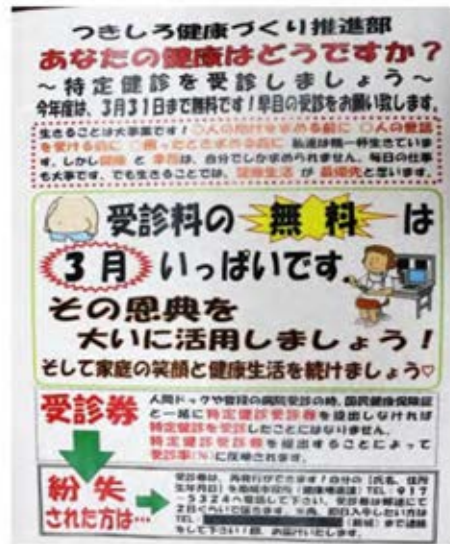
つきしろ自治区は、全部で787区画あります。その内、当時（平成22年）は400以上の区画の空地がありました。住居より多いこの事実、廃棄物の捨て場となっている空地の現状を回復するには、全区民が一身となり理解を求め、前途への共鳴を確認しつつ、南城市への協力を求め地権者の住所録の要請をいたしましたが、個人情報規制によりままならず、それではと市と自治会と連名で地権者へ「自分達の土地は自分達で管理をして下さい。もし遠隔であったり事情があったりするのであれば、いくらかの管理料を自治会へ納めて下さい。」そのような文書を送付いたしました。そうしたことで90数カ所の管理依頼があり、当自治会ではボランティアを募り空地対策として、自治会総会で決議を計り起動することになりました。その過程には多くの問題点をクリアいたしました。

自治会は『自分達で出来ることは自分達で成し遂げる』という自助努力の理念を掲げ全てのものが結びつき一つの働きになり、正に有機的な結果を生みだそうと決意いたしました。この決意には、多くの困難がありました。しかし『行動を続ける』ことにより『ちょっとづつ良くなった』つきしろを深く感銘することになります。行動を続けることにより、結果は宝庫になり、この行動は確固たるものになりました。

健康ニュース毎月発行  
(令和3年10月8日発行 VOL.161)



特定健診受診促進チラシ



### ③花の里つきしろ ～沖縄県緑化推進委員会の協力～

自治区民ボランティアの全面的な協力のもと、原野化した空気を整備し、この空気に花を咲かそうと提案。県の緑化推進委員会へ何度も足を運び、やっと常務理事に、つきしろ公民館を訪れていただきました。「空気に、夏はひまわり、秋はコスモスのタネを蒔き、花を咲かせたい。」と情熱を訴えました。常務理事は私達の願いを理解していただき『花の里つきしろ』と名称をつけていただきました。

空地の花植は区民総出の作業で、区民は「自治会は何をしようとしているのだ」どんどん花が植えられ、メディアに発信をし、みるみる内に集落が変わり始めた。区民の声が明るい。みんなが活気づいていく。この雰囲気は区民一人一人が忘れることはないでしょう。

つきしろは道路に花を咲かせるだけでなく集落全体に、花を植え咲かせている。助成事業の恩恵によりフラワーハウスを造り、自分達で種から花苗をつかって区民へ配り、又花苗を必要としている自治会へ花を提供している。

このように区民全体が『自分達で出来ることは、自分達で成し遂げる』この結束力・信頼の絆は、つきしろは確固たる事実になりました。十年余り、この行動を続けてきた誇りある結果であります。



### 花苗づくり講習会





## 『フラワーハウス』で花苗づくり



### ④つきしろ緑化・環境美化保全の継続

#### ●区民農園

つきしろが開発される条件として3%の緑地確保が必要であった。しかし緑地は原野化し現在はその緑地を区民農園として利活用している。そこに『農』への思いを入れ、コミュニティの強化を図りたいと、区民が種々の作物をつくり大きな有用性を生み出し、自治区の有益として継続している。



## ● 果樹園

区民農園と同様に緑地を活用して、区民が思い思いの果樹を育て、各家族が自分達で果物を実らせる。その有意義な場所として前向きに、平成24年には『沖縄県緑化推進委員会』と『りゅうせきぴたエコカード緑化事業』により自立を目指し、今では47本の果樹木が育っている。各種の果実は育てる家族の心身のすこやかさを見ることができます。



## ● 花の里つきしろ

つきしろの再起の原点となった『花の里つきしろ』の花植活動は今後ずっと続く活動です。各地区から多くの称賛がありますが、つきしろの活動は特別なことではなく普通の活動として自覚を新たに長く続けることを、みんなでしっかりと続けていきます。





### ● 街路樹の育成

開発時にハウオウボクの木が125本既成樹としてありましたが、台風により殆どの木が倒壊をしてしまい、自治区民より街路樹の要望を受け、市へ要請をいたしました。市へ「つきしろ自治会で執行してもいいですか？」と確認を取り、樹木の選定をしていただき『花の里つきしろ』ということで『サルスベリ』を選定されました。沖縄県緑化推進委員会の公募事業に挑戦し、2カ年の時をかけて完成。今後はこの育樹に区民の心が係わってきます。





●空地管理（除草作業）

集落の汚点の解決の糸口は空地の整備をすることでありました。地権者と所有地管理契約を交わし、年間5～6回の除草をする。そうすることにより、各区画の空地が屋敷として現れ、価値ある空地になる。そして現在は建物が頻繁に建立されるようになりました。現在も32件の空地管理をしております。今後も続きます。



整備前



整備後



沖縄の道路を  
きれいにしたい！

道路植栽樹木管理

つきしろ環境美化団体

ボランティア  
サークルたんぽぽ

つきしろ健康づくり  
推進部

つきしろ自治会

つきしろ環境  
美化部

つきしろ老人クラブ  
若月会

●道路植栽樹木管理ボランティアは、上記の団体が11の小団体に分割して年4回、草刈・花植え清掃作業の活動をしている。

- ①尚巴志ハーフマラソンコースであった自転車道5 km。
- ②県道86号線、つきしろ入口から自治区のはずれまで延べ1.8 km。  
その内、0.9 kmに年間花を植え咲かせている。
- ③県道86号線、親慶原からつきしろ入口1.2 km。
- ④南城市グスクロード公園通り1.8 km。

**以上4カ所、合計延べ9.8 kmの道路の道路植栽樹木管理ボランティアを行っている。**



## もう一つの花

つきしろは、平成22年から自治区の再生へ取り組み、空地対策や環境美化に花植えを実施してきました。その活動規模は緑化推進委員会もご存知の通り、花植活動をしてつきしろは再生への糸口をつくりました。

そしてもう一つの『地域の花』が生まれました。それは公衆便所の美化であります。皆様のご家庭でも生活の場として、同じようにトイレはいつも清潔できれいでなければなりません。当時のつきしろ児童公園の公衆便所は、壊され放置されておりました。

平成22年より、自治区再生と同時に使用できるように改修し、毎朝5時に清掃を行い近隣の農家さんやつきしろを通る全ての人達に快適に使用してもらう為に、花植活動と同時に便所も再生復興へとスタートいたしました。するとどうでしょうか。「つきしろはすごい！」公衆便所についての話題が、大きな花として周囲に反響がおり、つきしろへの素直な善良性が飛び交うようになりました。毎日の清掃は、自主的にボランティアの皆さんが従事されそこに人の心の美しさ優しさ、植えて育てて咲かせた花のように、積極的にたずさわる『心の花』を、利用する人達へ咲かせております。

又、花の生育の手立てや美化活動には、つきしろ自治区民の特徴があります。上記のように各種団体でのボランティアグループでは「いついつ何時から花植・除草・清掃があるから集合して下さい。」と、団体計画に基づいて行うのが通常であります。つきしろの特徴は、団体に属しない人達が多くいて、個人で誰からも指示されなくても、自分の思いを行動で示す人が多く「やってあげたい!」「やりたい!」「やらなければ!」と優しい表向きを表してくれます。

この行動は、自治区を預かる責任者として心からの感謝と共に、集落のみんなが支えあっていることは、しっかりと動じない確固たる信頼と絆の御墨付きで、今後もこのつきしろ自治区が前向きに自分達の手で行動を続けていきます。



## 発表のまとめ

健康づくりを軸にした活動の中で、つきしろが抱えてきた不名誉なことをみんなで克服し自治区民が誇りをもって自分達のつきしろを慈しむようになりました。これは区民すべての皆さんが、リーダー役として『自分達でやろう』の役目を果たし『更に続ける』ことにより成し遂げたことです。

情熱があり、行動に移す。そして続けることの大切さを、本日は発表いたしました。そして集落を預かる者として、やったことのないこの仕事。壁に直面した時、昔からいわれている『仕事が仕事を教えてくれる』の格言は、必ず解決策があると意味しております。これをみんなで理解して乗り切ってきたように思います。

## つきしろ自治会が受賞した『緑化・環境美化保全』での表彰

平成26年 ☆めんそーれ沖縄県民運動（地域の清掃活動・花々の植栽への取組）  
☆沖縄県緑化推進委員会（緑化コンクールにおいて）

平成28年 ☆国土交通大臣賞（道路美化清掃実績において）

令和元年 ☆沖縄県知事賞（緑化の推進に尽力実績において）

令和3年 ☆沖縄県（都市緑化の推進及び都市公園等保全・美化活動）